

3.7 その他

(1) マイカー利用者の公共交通利用意向（郵送アンケートより）

- マイカー利用者の半数近くが公共交通利用に肯定的な意見である
→マイカー利用者全体のうち、43.6%が「出来る限り公共交通を利用したい」と回答している。また「積極的に利用したい」との回答も8.3%あった。
- 10歳代や高齢者の利用意向が高い
→年齢層別では、10歳代において「積極的に利用したい」の回答が25.0%あった。高齢者においても、年齢が上がるほど利用意向が高くなる傾向が見られた。

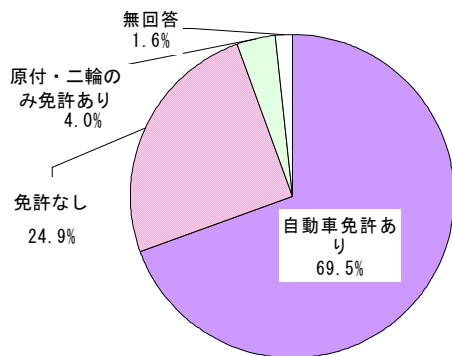


図 3-19 自動車免許の保有

N=2767

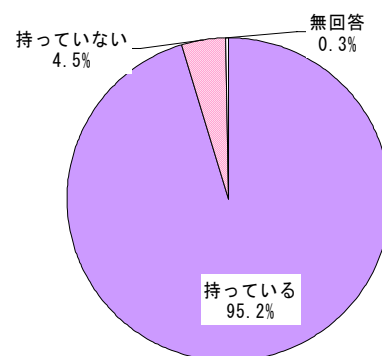
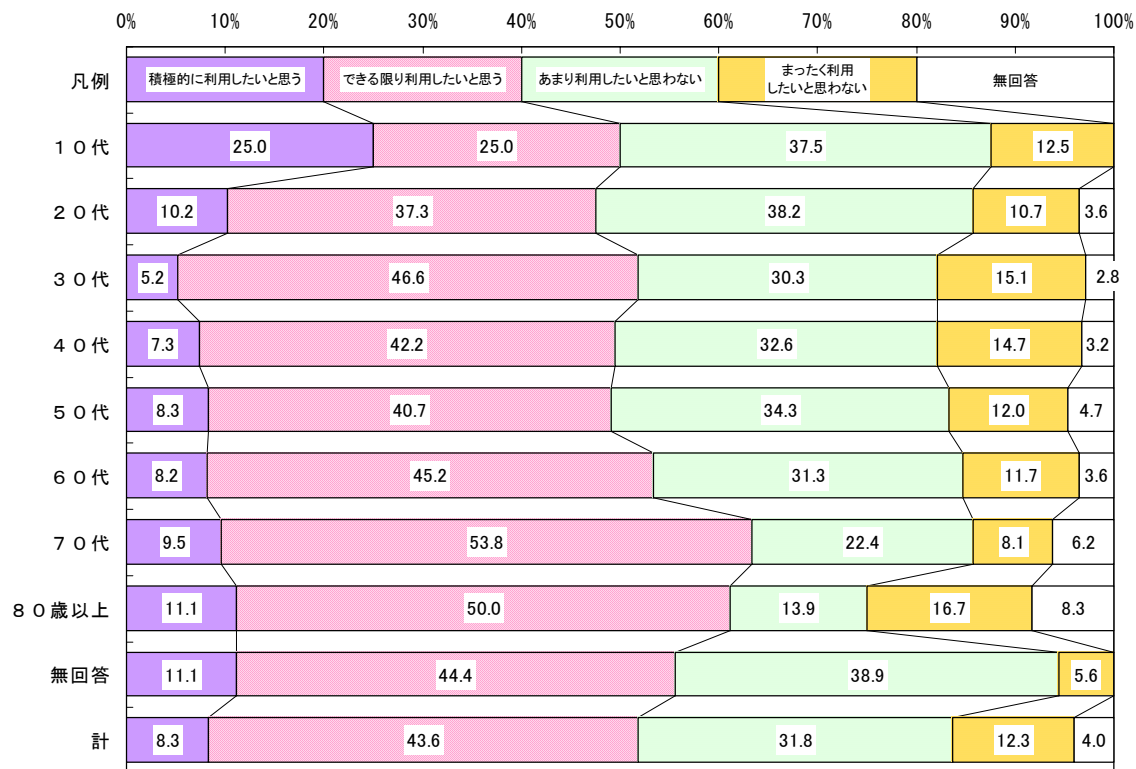


図 3-20 自分で運転するマイカーの保有の保有

N=1923



N=1866

図 3-21 マイカー利用者の公共交通利用意向（公共交通が改善された場合）

(2) 市民の送迎、同乗の利用実態（郵送アンケートより）

●回答者の半数が送迎、同乗の利用がある

→回答者全体の半数が送迎、同乗を利用しており、配偶者や子供、父または母が運転する自動車の利用が多い傾向が見られた。

●送迎、同乗利用者の7割が公共交通利用（公共交通が利用しやすく改善された場合）に肯定的な意見である

→マイカー利用者全体のうち、52.2%が「出来る限り公共交通を利用したい」と回答している。また「積極的に利用したい」との回答も18.1%あった。

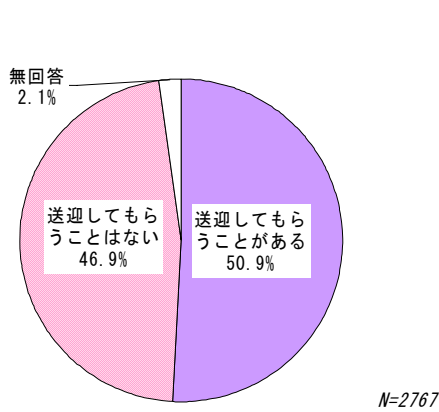


図 3-22 送迎、同乗の有無

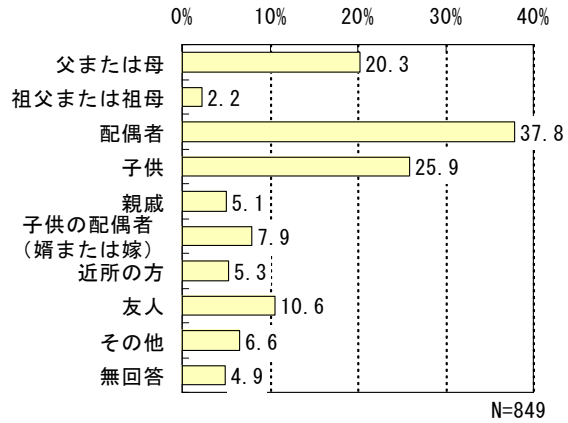


図 3-23 送迎、同乗利用時の運転者

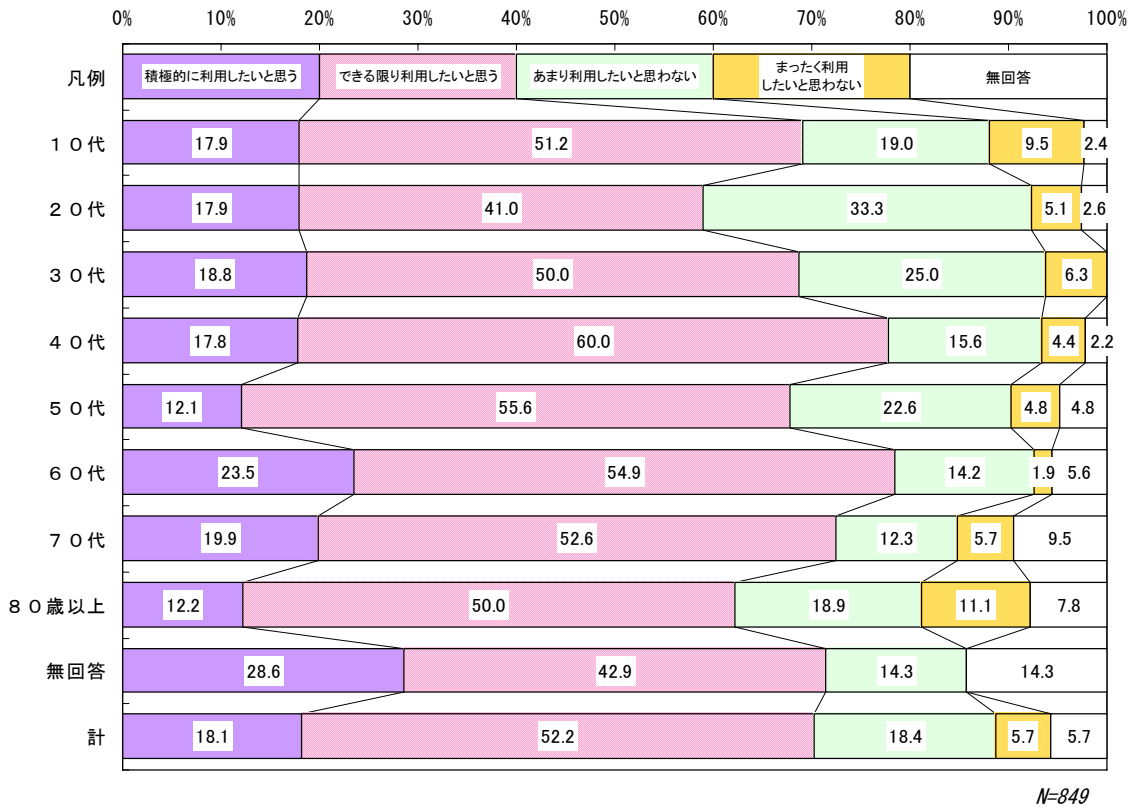


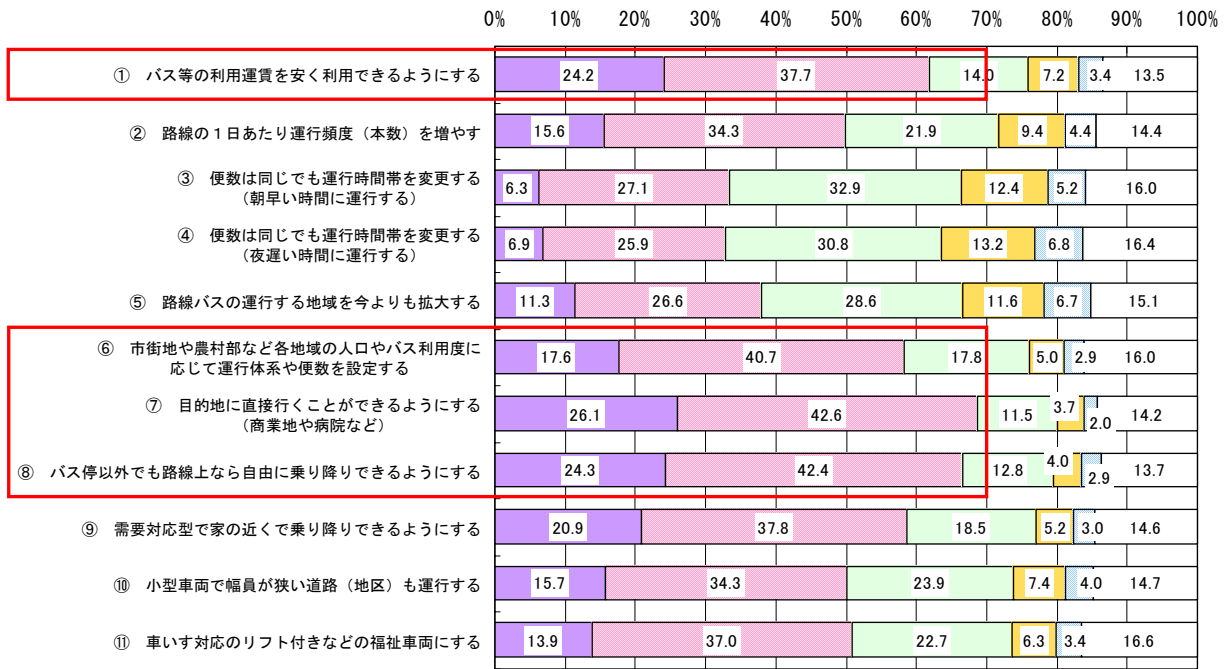
図 3-24 送迎、同乗利用者の公共交通の利用意向（公共交通が利用しやすく改善された場合）

(3) 二本松市における公共交通の今後のあり方（郵送アンケートより）

① 公共交通の利用のしやすさ（改善すべき点）

●「バス等の利用運賃を安く利用できるようにする」「目的地に直接行けるようにする」が多い
→公共交通の改善すべき点として、「バス等の利用運賃を安く利用できるようにする」や「目的地に直接行けるようにする」などの意見が多い。

●その他、「バス停以外の路線上の自由乗降」「需要対応型交通」などの意見も多い
→運行の工夫として、「バス停以外でも路線上なら自由に乗り降りできるようにする」や「需要対応型で家の近くで乗り降りできるようにする」といった意見も多い。

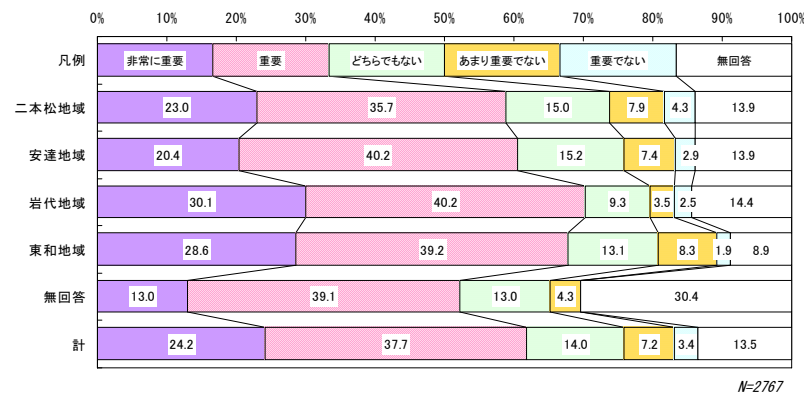


■ 非常に重要 ■ 重要 □ どちらでもない ■ あまり重要でない ■ 重要でない □ 無回答

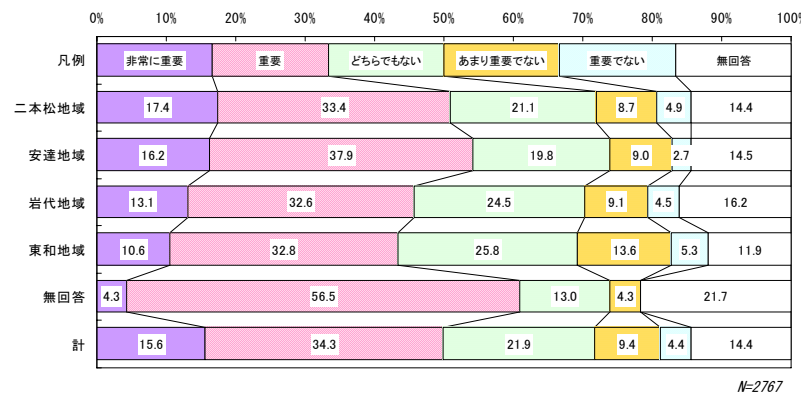
N=2767

図 3-25 公共交通の利用のしやすさ（改善すべき点）

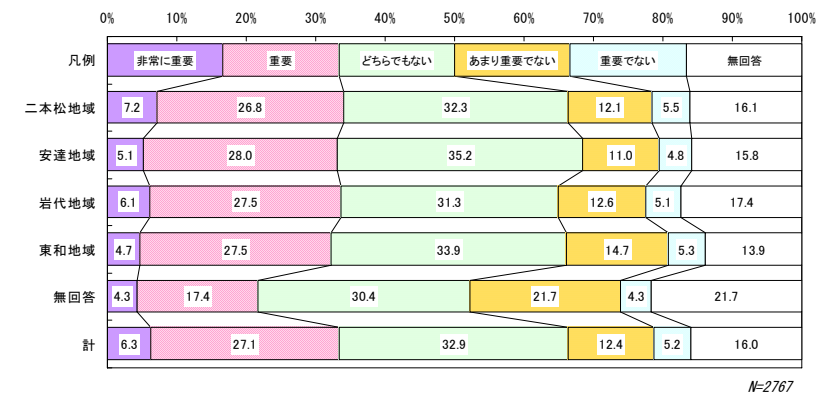
①バス等の利用運賃を安く利用できるようにする



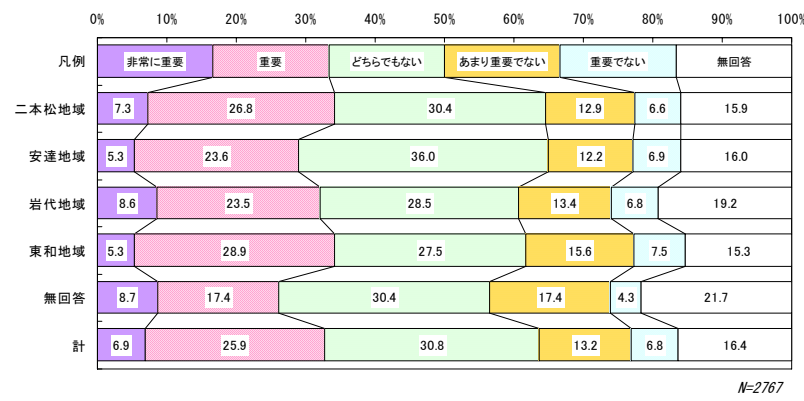
②路線の1日あたり運行頻度(本数)を増やす



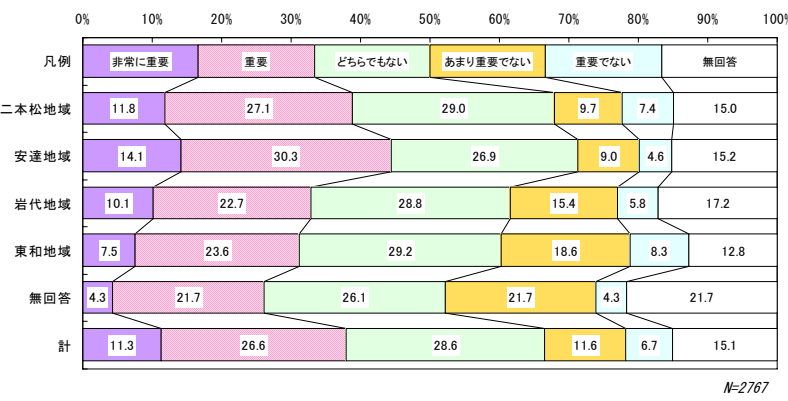
③便数は同じでも運行時間帯を変更する(朝早い時間に運行する)



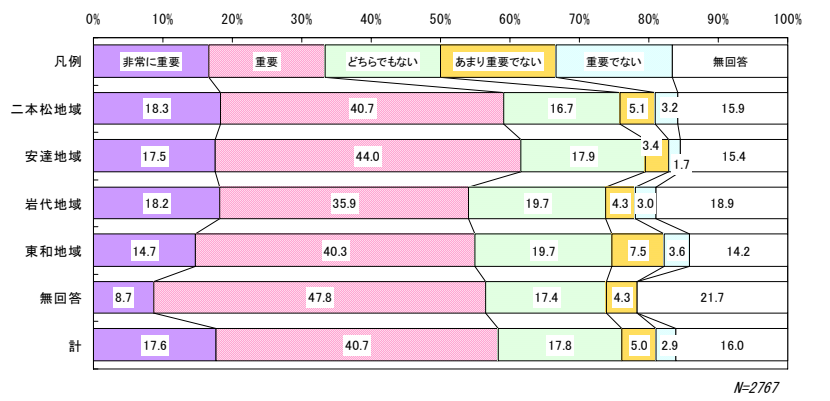
④便数は同じでも運行時間帯を変更する(夜遅い時間に運行する)



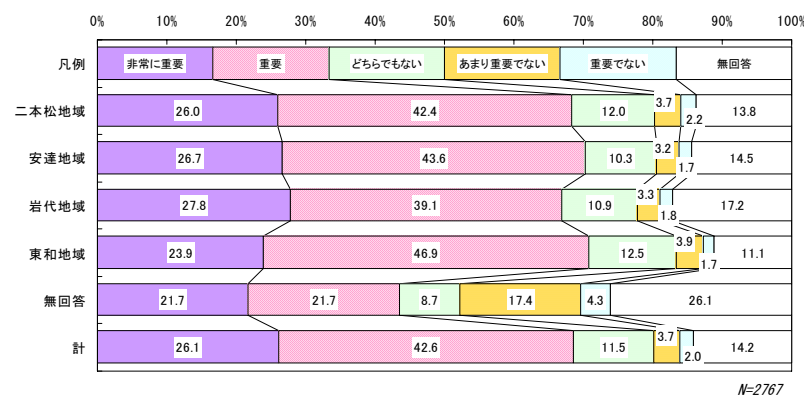
⑤路線バスの運行する地域を今よりも拡大する



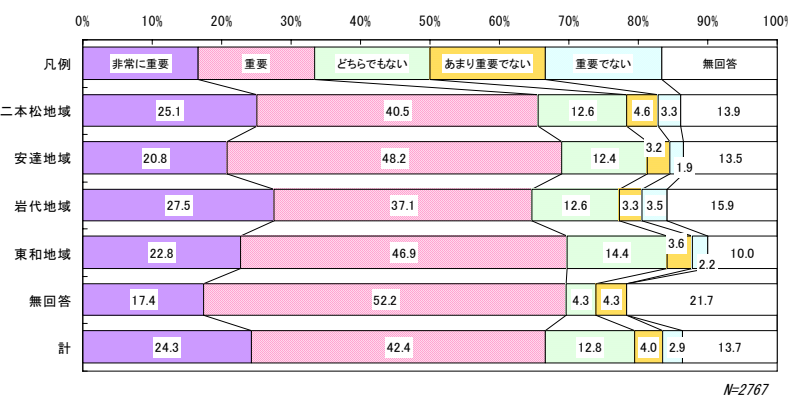
⑥各地域の人口やバス利用度に応じて運行体系や便数を設定する



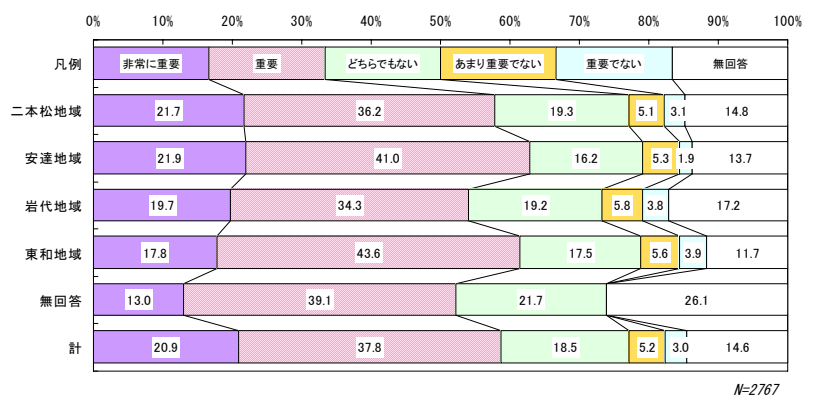
⑦目的地に直接行くことができるようにする(商業地や病院など)



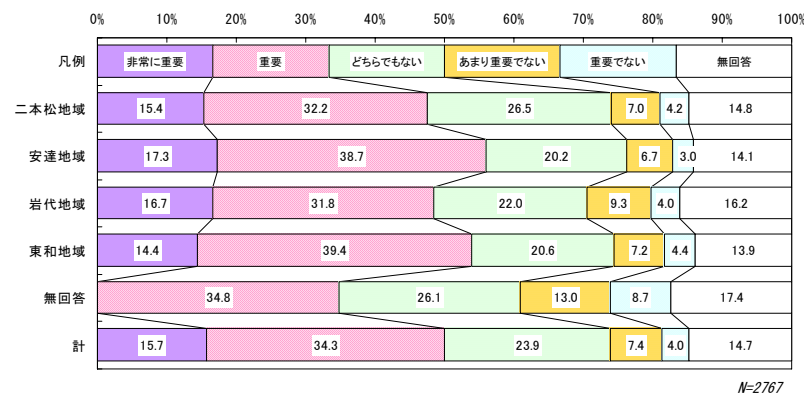
⑧バス停以外でも路線なら自由に乗り降りできるようにする



⑨需要対応型(相乗りタクシー)で家の近くで乗り降りできるようにする



⑩小型車両で幅員が狭い道路(地区)も運行する



⑪車いす対応のリフト付きなどの福祉車両にする

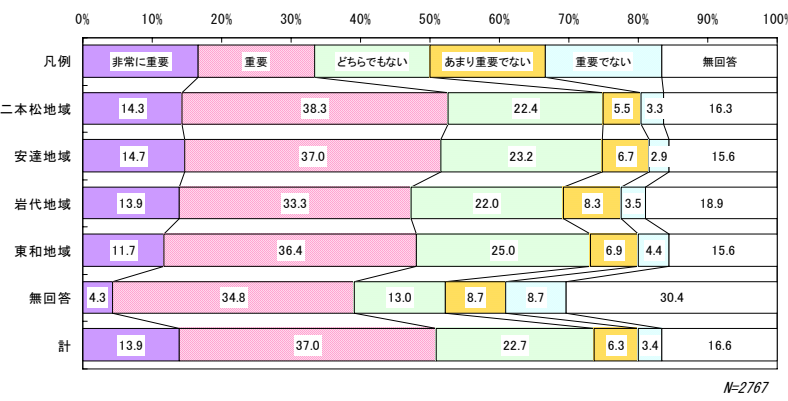


図 3-26 公共交通の利用のしやすさ(改善すべき点)(地域別)

② 公共交通の今後のあり方

- 「現在と同程度の財政負担を維持したまま効率化や見直し、サービス維持」が最も多い
→公共交通の今後のあり方として、「現在と同程度の財政負担を維持したまま効率化や見直し、サービス維持」が最も多い。また、続いて「市民がもっと公共交通を利用して、市の財政負担を減らすように協力していくべき」が多く、市民の利用や協力意向も伺われる。
- 「市民負担や財政負担を高くしても今以上に公共交通サービスの向上を図るべき」は低い
→「市民負担や財政負担を高くしても今以上に公共交通サービスの向上を図るべき」については、全体で最も低く、市民は財政負担を伴うサービスの向上化は望んでおらず、サービス水準の維持、または向上においても運行の効率化により進めることが必要とされている。

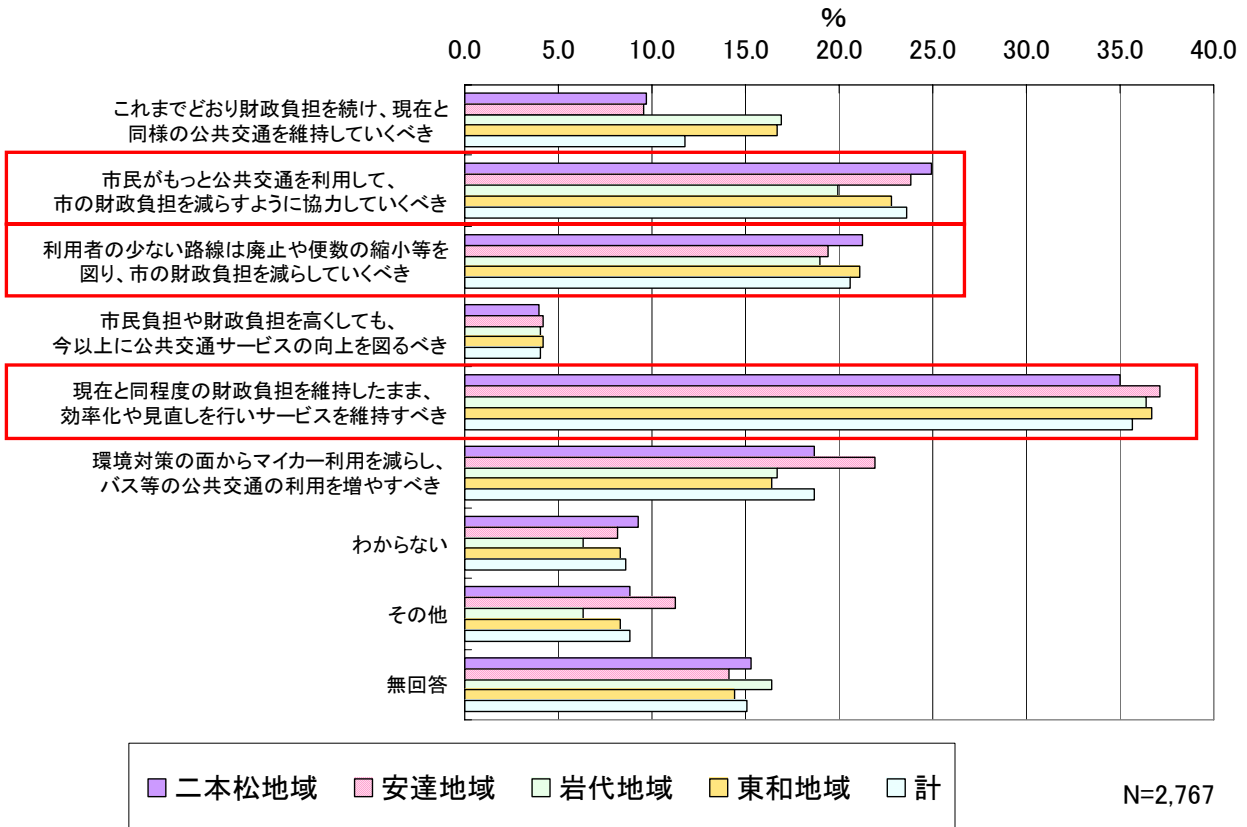


図 3-27 公共交通の今後のあり方（地域別・旧市町）